

長岡税務署長賞

税金とSDGs

長岡市立刈谷田中学校

三年 今井 実希

「増税」

私達はこの言葉を聞いて何を思い浮かぶでしょうか。私達が生きる社会は消費税や所得税など沢山の税金であふれています。だから、はじめ私は、物の値段がさらに高くなって生活しにくそうだなと不満をいっていました。しかし、「世界の幸福度ランキング」を調べると日本は百位中五十一位なのにに対し、消費税がなんと二十四パーセントで日本の二倍以上であるフィンランドは七年連続で一位を守り続けています。なぜ、消費税率がそれほど高いのに国民が満足して暮らすことができるのでしょうか。そこには、税金の使い方にある秘密があったからです。

一つ目の秘密は、社会保障、教育費として子供の育児を担う手厚い支援です。例えば、生まれてきた赤ちゃんの一年間に必要となる衣類やケア用品をぎっしりと詰め込んだ「ベイビーボックス」という国からの贈り物が給付されます。初めての育児をするときでも買うものに困ることなく子育てができるので、税金に対してのありがたさを感じられると思います。またデザインにも工夫があり、ジェンダーバイアスを避けるため箱の色を全体的にカラフルにしているようです。

これは、世界全体で課題とする持続可能な開発目標（SDGs）の中にある「五・ジェンダー平等を実現しよう」という項目にもあり、様々なことを考慮して有効に税金が使われているのではないかと思います。

日本では保育料、小学校から大学までの学費は、少なくとも七百五十万円もかかってしまいます。しかし、フィンランドでは、それらの費用が全額負担されて利用できます。生まれてきた子供全員が税金の支えによって質の良い教育ができます。またこれも、SDGsの中にある「四・質の良い教育をみんなに」と「十・人や国の不平等をなくそう」という二つの目標達成にすぐ近いと考えます。

最後の秘密は、高齢者の介護についてです。介護と言われる思い浮かぶのは、高齢者施設のように思いますが、フィンランドでは、自宅に手すりをつけたり、適切な補助用具を無料で借用できるというものです。これも自治体が税金で支払いをするので生活の心配も少なく済みます。SDGsと照らし合わせても「三・全ての人に健康と福祉を」という目標にも繋がります。

このように、一生涯の手厚い支援は国民が納めた税金の成果といえます。またフィンランドのSDGs達成率が世界一位なのも税金が関係していると言えます。日本で少子高齢化や地球温暖化など多くの問題が飛び交う中で、まず私達は税金について、そして政治について関心を持ち、行動することが必要です。大人になるとより税金を納める機会が増えてくると思います。税金を納める意味を知った上で社会に貢献したいです。